



マインドフルネス総合研究所のホームページで
地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームの会
員として、パートナーシップのプログラムを公
表し推進しています。

<http://mindfulness.jp/sdgs/mokuji-sdgs.htm>



Goal 17. パートナーシップで目標を 達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

内面の成長のスキルをすべての人の SDGsの実現のために

マインドフルネス総合研究所および日本マインドフルネス精神療法協会が研究開発しているマインドフルネス SIMT(注1)は、広く深い心の観察、感情の反応のしかたのトレーニングを含むので、人が遂行するすべての営みに関係します。不愉快だ、自分の考えと違うので不満だといって、団体や社会全体から見れば、SDGsに貢献できそうな人をいじめ、提案や人を排除するようでは、SDGsは実現しない。

その説明はここに。

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/4718>

[20-00-a-simt-to-17goals.pdf \(mindfulness.jp\)](#)

ここでは、特に、17のゴールとの関係を述べます。

17. パートナーシップで目標を達成しよう

持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

目標17のうち、次のターゲットは、自分だけで活動しても SDGsの実現は難しいので、様々なステークホルダー(利害関係者)のパートナーで推進することを奨励している。

ターゲット

マルチステークホルダー・パートナーシップ

ターゲット

- 17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。
-

私どもの事業も単独でするのは限界がある。パートナーシップで遂行できれば、多くの目標の実現のために貢献できるかもしれないと希望をもっている。

蟹江憲史氏はターゲット17の説明のなかでこういう。

「持続可能に目標を達成していくためには、あらゆるステークホルダーがコンセンサスを形成し、その行動をとることを認めただうえで、行動に移すことが重要になる。そのために、**多様な主体**によるパートナーシップが必要になる(17・16, 17・7)。…

全員が賛成するとはいかないまでも、少なくとも「仕方がない」とかんがえて、皆が同じ方向を向いていくという意味でのコンセンサスを形成するには時間がかかる。しかし、一度コンセンサスができれば、それが覆されることはまずない。そういったコンセンサスの輪を広げていくことが持続可能な社会を創ることへと結びつく。」(p122)(注2)

団体が、SDGsの位置づけをして、新しいパートナーシップで事業を行う場合、団体の中にコンセンサスを形成するというステップがある。団体の中には、多様な価値観、多種のスキル、立場の違いのあるメンバーがいる。みな、生きがいを持ち、幸福になりたい個人である。

この記事の中に、個人と団体の関係が説明されている。

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/3246>

SDGsのパートナーシップでの働きは、団体と団体とのパートナーシップになるが、その団体で行動するのは、個人だ。団体の中には、多数の個性的な人間がいる。同じ団体の中にも、好み、人生観、いきがい、趣味などが違う。

蟹江氏は、

「皆が同じ方向を向いていくという意味でのコンセンサスを形成するには時間がかかる。」という。

次の記事で、個人と団体、団体と社会、個人と社会の関係が考察されている。SDGsの実現のためにパートナーシップを強化する時に、個人の内面の心理の観察も重要になる。

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/4721>

★団体の中の個人、地域の中の個人、社会の中の個人

SDGsに位置づけて、他の団体とのパートナーシップで事業を遂行していく精神は崇高だが、団体の中の

メンバーのコンセンサスを形成するには時間がかかるという蟹江氏のいうとおりだ。

◆-----◆
いくつかの提案(このNPOが提供できる手法を用いて)
◆-----◆

この NPO は、単独では、次のプログラムを行っています。

- ★プログラム00
- ★プログラム01
- ★プログラム02
- ★プログラム03
- ★プログラム04

Goal 17では、この NPO とパートナーシップで他の団体や自治体の目標を達成しようというものです。

★プログラム11から17までが、パートナーシップで、皆さまの団体、自治体の中で、マインドフルネス SIMT を活用していただく人、団体を育成して、独自に目標を実現していくものです。

この NPO のサービス(マインドフルネス SIMT)は、ほとんどすべての Goal に関連します。目標を遂行するのは人間だからです。人間の心を健康に維持していく必要があるからです。

【ターゲット3. 4】非感染性疾患による死亡率を減少(うつ病などによる自殺を含む)

他の Goal(目標)と関連する問題をパートナーシップで実現していく。

<http://mindfulness.jp/sdgs/SDGs-Program-12.pdf>

★プログラム12 パートナーシップで

【Goal 3】すべての人に健康と福祉を

特に、**【ターゲット3. 4 自殺防止】**のネットワークをパートナーシップで。

うつ病、パニック症、PTSD など治りにくい。相談だけでは治らない。治す支援のネットワークづくりを。

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/4740>

★孤独でつらい住民のためにも

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/1814>

★相談だけではなくて、うつ病やパニック症、PTSDなどを治す支援のネットワークが必要

治りにくいうつ病、PTSD、パニック症などを改善支援するセッションを住民やメンバーが受けられる仕組み、その他種々の心理的なケアが関係する領域(自治体、学校、医師との協同で)。

【Goal 4】質の高い教育をみんなに

自殺防止のために、地域の住民に、マインドフルネス SIMT を活用した自殺予防、うつ病の教育をする。
プログラム12 治らないうつ病、パニック症、PTSDなどを治す支援。

その内の一つとして、地域の高校で、自殺防止の心得も取り入れていただけないだろうか。これは、1

回の授業だけでもいいなら、すぐにでもできる。

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/3967>

★高校教育に精神疾患

- 【Goal 5】ジェンダー平等を実現しよう
- 【Goal 8】働きがいも 経済成長も
- 【Goal 9】産業と技術革新の基盤をつくろう
- 【Goal 10】人や国のふ平等をなくそう
- 【Goal 11】住み続けられるまちづくりを
- 【Goal 12】つくる責任つかう責任
- 【Goal 16】平和と公正をすべての人に
- 【Goal 17】パートナーシップで目標を達成しよう

(他の目標は編集中です)

◆-----◆
実現に向けての実際の対策行動
◆-----◆

自治体や団体が、上記のような目標を実現のために、実際の対策を具体化したいというところがある場合、このNPOは次のようなプログラムを提供できます。

★プログラム-11: [\(自治体、団体とのパートナーシップで\)【まず講演】住民・メンバーのうつ病・自殺を予防するための仕組みづくり](#)

⇒講演の後、検討していただきよろしければプログラム12に入る

★プログラム-13: [\(団体とのパートナーシップで\)質の高い教育:地域にはすぐれた少数説の偉人、学問・教育も](#)

☆現代の精神社会問題の解決支援に貢献する可能性がある仏教、禅、マインドフルネスの少数派の学説を排除せず各派の説を広く教育される仕組みを

(これらは内面の心の観察実践である)

さらに「まちづくり」に活用

★プログラム14: 地域の古人の業績と遺跡を紹介(⇒目標4、11、17とも関連)

★プログラム-12: [マインドフルネス SIMT による総合プログラム](#)

(仮称:こころのケアセンター)

プログラム11の実現

☆様々な精神社会問題の解決支援のための場所。住民・メンバーのうつ病・自殺の防止の仕組みづくり・居場所・勉強会・うつ病の改善支援などにプラクシスとしての SIMT を活用した総合的な取り組み

(参考例)

☆例1=[定期的に開催するマインドフルネス心の健康体操](#)(高齢者のみ)

[☆例2＝連続講義・高齢者のための心の健康](#)

[☆例3＝定期的に開催するマインドフルネス心の健康クラブ\(希望者会員制\)](#)

☆例4＝SIMT でうつ病、PTSDなどを改善するための相談および継続支援(各人6＊12か月)

(上記を広めていくためには、対面でのサービスも併用するので、自治体、団体の近くにMMTがいたほうがいいので、その育成認定事業を拡大しなければならない。ベテランのMMTもこれを担うだろう)

★医療機関とマインドフルネス SIMT の臨床試験

共同で臨床試験を

(注1) SIMT は、自己洞察瞑想療法である。Self Insight Meditation Therapy
参照:大田健次郎(2013)『うつ・不安障害を治すマインドフルネス』佼成出版社
大田健次郎(2014)『不安、ストレスが消える心の鍛え方
——マインドフルネス入門』清流出版
ホームページでの紹介:top > マインドフルネス心理療法 SIMT とは

(注2) 「(pxx)は、蟹江憲史(2020年)『SDGs(持続可能な開発目標)』のページを示す。